

< あなたの治療について >


呼内-CDDP/TS1-NSCLC-q5W

今回の治療は、CDDP/S-1療法という治療法で、ティーエスワン（TS1）という内服薬とシスプラチン（CDDP）という注射薬を併用して行います。ティーエスワン、シスプラチンは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ



今回の化学療法は5週間が1コースとなっています。各コースの8日目に点滴を行い、点滴の1週間前から21日間に渡ってのみ薬を服用します。この治療を5週間（35日間）ごとに6回繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1~21日目	22~35日目
	ティーエスワン (抗がん剤) 80mg/m ²	内服		お休み

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1~7日目	8日目	9~10日目	11~35日目
	アプレピタント (吐き気止め)	内服	お休み			お休み

アプレピタントは症状に応じて上記日数を超えることがあります。

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1~7日目	8日目	9~35日目
	デキサート アロキシ (吐き気止め)	点滴 約30分	お休み		お休み
	シスプラチン (抗がん剤) 60mg/m ²	点滴 約60分			

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

シスプラチン・ティーエスワンについて

白血球減少、好中球減少、ヘモグロビン減少、貧血 悪心・嘔気・嘔吐、食欲不振 全身倦怠感
脱毛 色素沈着

特徴的な副作用について

シスプラチンにおける

急性腎不全などの腎障害

「顔や手足がむくむ、からだがだるい、尿の量が減る、尿が赤みを帯びる、発熱、発疹、お腹が痛む、吐き気、下痢、節々が痛む、体重が減る」などの症状

ティーエスワンにおける

間質性肺炎

「息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱」などの症状

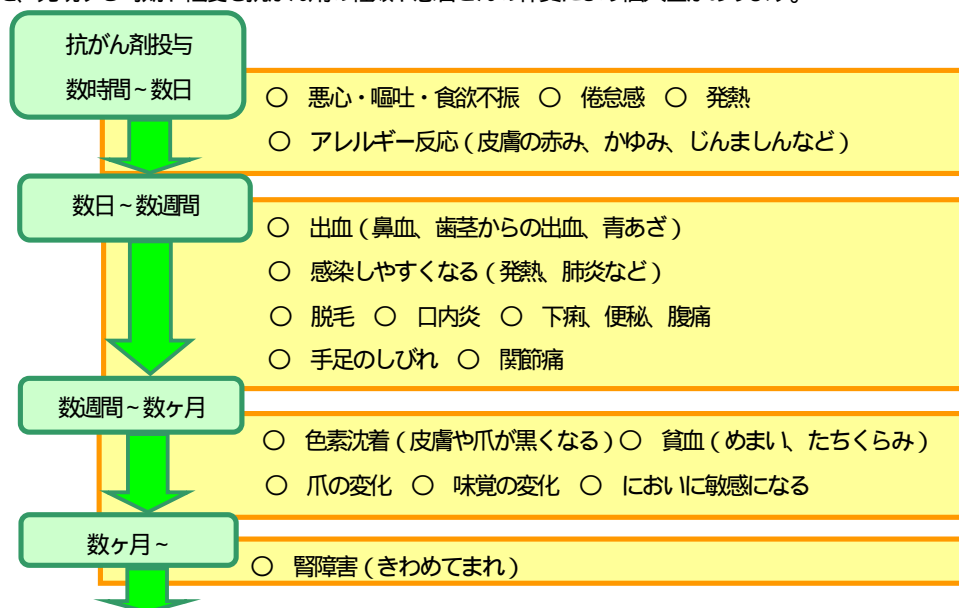
*** 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【シスプラチン】

- <急性腎不全> 尿の出が悪くなる、血尿が出る
- <汎血球減少等の骨髄抑制> 発熱、悪寒、咳、鼻水が出る、めまい、貧血、出血しやすい、血が止まりにくい
- <悪心・嘔吐> 吐き気、嘔吐
- <ショック・アナフィラキシー様症状>唇や爪などが青紫色になる、胸や息が苦しくなる、急に気分が悪くなる、めまいがする
- <聴力低下・難聴、耳鳴> 高い音が聞こえにくい、耳鳴りがする
- <うっ血乳頭、球後視神経炎、皮質盲> 視力が低下する
- <脳梗塞、一過性脳虚血発作> 意識の低下、手足のしびれ
- <溶血性尿毒症症候群> 出血しやすい、血が止まりにくい、尿の出が悪くなる、皮膚や白目が黄色くなる、めまいがする、皮膚に紫色の斑点ができる
- <心筋梗塞、狭心症、うっ血性心不全、不整脈> 動悸、息切れ、胸が痛い、苦しい
- <溶血性貧血> 皮膚や白目が黄色くなる、めまいがする
- <間質性肺炎> 発熱、咳、胸や息が苦しくなる
- <抗利尿ホルモン不適合分泌症候群> 尿の出が悪くなる、痙攣、意識障害
- <劇症肝炎、肝機能障害、黄疸> 黄疸が出る
- <消化管出血、消化性潰瘍、消化管穿孔> 激しい腹痛、下血
- <急性膵炎> 上腹部の激痛
- <高血糖、糖尿病の悪化> 血糖値の上昇、尿糖
- <横紋筋融解症> CPK上昇

【TS-1】

- <骨髄抑制>出血がとまりにくい、体がだるい、発熱、のどの痛み
- <重篤な肝障害>皮膚が黄色くなる、体がだるい、白目が黄色くなる、食欲不振
- <重篤な腸炎>下痢、激しい腹痛
- <間質性肺炎>息苦しい、発熱、空咳
- <消化管出血>血が混じった便、黒色便、血を吐く、腹痛
- <皮膚粘膜剥離症候群>ひどい口内炎、赤い発疹、まぶたや眼の充血

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。